

実は危険？！ 普段は身に着けている身近な金属

放射線技術科 高江洲玲音

皆さんはMRI検査と聞いて何を思い浮かべますか？

MRIは巨大な磁石の中に入る検査になるので、金属や金属を含む可能性があるものは持ち込めません。理由としては、金属が画像に影響を与えること、発熱による火傷、装置に引っ付く吸着事故があげられ、MRIに吸着した金属をとることはほぼ不可能になります。そのくらい強力な磁場の機械になります。そのためMRI室に案内する前にスタッフが細かな金属確認を行っています。

普段は当たり前前に身につけているものがMRI室に持ち込めないことがあります。例えば、普段乗っている車いすは持ち込めません。専用の車いすやベッドに移動して検査室への案内が可能になります。

また、入れ歯や補聴器、ピアス、ネックレス、指輪等も外してもらいMRI室に案内になります。体内金属の代表的なペースメーカーは種類によっては検査可能で、人工内耳は禁忌のため検査はできません。

中にはこんなものダメなの？！と驚かれるものもあります。

例えば、ジェルネイルやマグネットネイルをしてい

ると、安全性の面から原則検査を行うことができません。検査日までに事前にネイルオフをしていただきます。

ほかに、コンタクトレンズは金属を含む可能性があるため検査前に外してもらっています。

またウィッグや増毛スプレー、増毛パウダーもプラスチックや金属成分が影響するため、検査時の使用を禁止しています。検査を安全に施行するためにも皆様のご協力よろしくお願いします。

今回例に挙げた物は一部になります。検査を安全にまた、スムーズに行うためにもみなさまの協力が必要となります。不安に思う点があれば、放射線科スタッフにご相談ください。



診療所だより

大原診療所 医師 小橋川 隆行



2026年4月より西表大原診療所へ赴任しました、小橋川隆行と申します。診療所のある西表島は沖縄県八重山諸島に位置し、島の約9割が亜熱帯の原生林に覆われた、豊かな自然が今も色濃く残る島です。島の入り口である大原港から降り立って、すぐそばに見える仲間川には、マングローブ林を巡る遊覧船が運航する他、今年は手作りの筏で川を下る中学校行事も開催されました。見るものを圧倒させる豊かで生命力にあふれた環境は、住民の方々にとっては生活のすぐそばにあるものです。天然記念物に指定されているセマルハコガメが、診療所の庭を我が物顔で歩く姿は、集落と自然との近さを意識させられます。



西表島にある集落の多くは、戦中/戦後に入植した住民の方々が、自然を開拓してきた土地です。診療所のある大原集落も、今年で入植から85周年目を迎えます。それぞれの集落で開かれる入植祭は、少し手を抜くだけで緑に吞み込まれてしまうこの島で、遅しく暮らしてきた住民の方々の歴史を感じるイベントです。

離島医療の魅力は、病気だけを診るのではなく、その人の暮らしや家族、地域とのつながりまで含めて支えることができる点にあります。診療室で出会った患者さんと地域の行事で再会したり、港で声を掛けてもらったりすることも少なくありません。医師であると同時に地域の一員として受け入れていただけることは、島だからこそ得られる大きな喜びです。

この島で地域医療に携わり、これまで経験したことのない環境と島民の方との関わりに、日々新鮮な驚きと暖かさを感じています。これからも西表島の暮らしに寄り添い、一人ひとりが安心して生活できる地域づくりに、微力ながら貢献していきたいと思ひます。

やいまむん

沖縄県立八重山病院広報誌(令和8年9月発行)

発行 / 沖縄県立八重山病院
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院 広報委員会

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557(代表) FAX:0980-87-5835



沖縄県立八重山病院広報誌

Vol.20
2026.9

八重山病院お仕事体験ツアー2026 (R8.7.25開催)



ご参加いただきありがとうございました！！



- 地域とつなぐ新たな架け橋 ～地域包括ケア病棟が本格稼働～
- 地域包括ケア病棟について ～看護師長より～
- 地域連携センターからのお知らせ「紹介状をお忘れなく！」
- 実は危険？！普段は身に着けている身近な金属
- 診療所だより



地域とつなぐ新たな架け橋 ～地域包括ケア病棟が本格稼働～

経営課 課長 宮城 靖

こんにちは。八重山病院経営課長の宮城と申します。当院では、地域包括ケア病棟開設に向け、病棟再編プロジェクト会議にて検討を重ね、令和7年12月より実績取りを行い、令和8年6月1日より地域包括ケア病棟（39床）が本格稼働いたしました。今回は、地域包括ケア病棟開設における「地域・病院・経営」の3つの視点からの取り組みをご報告します。

第一に「地域のニーズ」への対応です。八重山医療圏ではこれまで回復期病床が約128床不足しており、患者様が急性期治療後に安心して在宅復帰に向けた準備を行う環境の整備が急務でした。本病棟は、地域へのスムーズな移行を支える重要な受け皿となります。

第二に「病院のニーズ」に基づくケアの充実です。DPCⅢ期を目安に症状が安定した患者様を受け入れ、退院後の実生活を想定した重点的な「個別リハビリ」や、看護師と連携し病棟における療養の場で実施する「POCリハビリ」を提供します。自宅または元の生活に戻ることを目的としており、実績取り期間中も「自分で食事ができるようになった」など、患者様やご家族から喜びの声を多数いただいております。

第三に「経営のニーズ」です。急性期病棟でのDPCⅢ期を超過した入院は日当点が低くなる傾向にありま

したが、患者様の実態に合わせた地域包括ケア入院料を適用することで適正な収益を確保します。さらに、病床を効率的に運用して病床稼働率を上昇させることは、当院の経営基盤を強化する上で不可欠な要素です。この病床稼働率の向上による経営の安定化があってこそ、将来にわたる持続可能な地域医療の提供が可能となります。

これら3つのニーズを満たす取り組みを通じて、患者様のスムーズな在宅復帰支援と病院経営の健全化を図ります。今後もより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。



地域連携センターからのお知らせ

紹介状をお忘れなく！



ご提示いただけない場合は

選定療養費の対象になります

紹介患者さんへお願い

受診当日は受付で、

八重山病院宛の紹介状（診療情報提供書）のご提示
をお願いします



紹介状は、医療機関同士で患者さんの治療をスムーズにつなぐための大切な情報です

受診の際は、
必ず紹介状をご持参ください

ご理解とご協力をお願いいたします

ご不明な点は、地域連携センターまで
お気軽にお問い合わせください

地域包括ケア病棟について ～看護師長より～



地域包括ケア病棟 師長 眞喜志 好枝

八重山地域では、回復期病床や在宅サービスの不足などにより、退院後の生活を支える体制の充実が課題となっています。当院でも退院先の調整が難しく、急性期病棟での入院期間が長くなる状況がみられていました。

こうした地域のニーズに応えるため、2026年6月に39床の地域包括ケア病棟を開設しました。開設に向けては、職員研修や運用体制の整備に加え、多職種との連携強化を進め、開設後は入院早期から退院後の生活を見据えた支援に取り組める体制を構築できるよう取り組んできました。その結果、看護師の意識は「治療中心」から「生活を支える看護」へと変化し、患者さんやご家族とともに退院後の生活を見据えた支援が日常の実践として定着してきました。

地域包括ケア病棟の開設は、病棟機能の変更にとどまらず、退院支援を病棟全体で担う文化を育み、看護の質の向上につながっていると日々感じています。今後も地域に根ざした病棟として、多職種で力を合わせながら患者さん一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、質の高い医療・看護を提供してまいります。

入院から退院までのイメージ

急性期病棟

（治療後、症状が安定した方）



介護施設



自宅



退院に向けた支援の実施

在宅復帰に向けた
リハビリ



退院に向けた相談



支援内容	具体例
介助方法の練習	食事・入浴・排泄の動作練習
自宅環境アドバイス	段差解消や福祉用具の設置提案
福祉用具・サービス相談	車椅子や手すりの選定、介護サービス紹介
退院後の生活イメージ	退院後の生活設計や訪問看護の利用方法説明

地域包括ケア病棟で
一緒に頑張りましょう！

